

第1回 BUG Art Award グランプリ個展



向井ひかり

ザ・ネイムズ・オン・ザ・ビーチ

2025.2.19(水) — 3.23(日)

ご挨拶

株式会社リクルートホールディングスが運営するBUGでは、2025年2月19日(水)より、第1回BUG Art Awardでグランプリを受賞した向井ひかりによる個展「ザ・ネイムズ・オン・ザ・ビーチ」を開催します。向井ひかりは、人の視線の高さほどある白い箱の側面や上部に、ストローや砂、鏡といった、誰もが日常的に目にしている素材を使った小さな立体作品や、ドローイング、映像を配置した「対岸は見えない」で、第1回BUG Art Award*にてグランプリを受賞しました。審査員からは独創的な着眼点とアイデア、そしてBUGの空間を意識した展示方法が評価されました。本展は、新しい表現への挑戦や、アーティストとしてのキャリアを支援することを目的としています。

向井は、日常生活のなかで頭に浮かぶ直感的なイメージを具現化することを大事にしています。例えば、行き交う車がルールを正確に守ることにより、自ずと動きを制御されていく様子や、水の入ったバケツの中に晒(さらし)が浮かび、光によって透けて見える光景など、私たちが日々見落としてしまう些細な出来事を観察し、作品を生み出します。また、武蔵野美術大学造形学部彫刻学科に在学の頃より一貫して、木片やガラス、紙粘土といった身近な素材を組み合わせ、両手で持てるサイズの小さな立体作品を作ってきました。本展では、天井高7.2mの空間を隅々まで使い、向井にとって最大規模となる新作に挑戦します。グランプリ受賞から約1年、準備を重ねてきた向井の個展をぜひご覧ください。

* BUG Art Awardは、制作活動年数10年以下のアーティストを対象にしたアワードです。審査員からのフィードバックの提供や、展示・設営に関する相談会の開催などのサポートを行い、審査過程においてもアーティストの成長に関与していきます。



写真・映像撮影OK



お手触れNG



防犯カメラ作動中

プロフィール

向井ひかり / Hikari MUKAI

1998年千葉県生まれ、東京都育ち。2022年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。

砂地に通りがかったら、砂山を作ってみる。なんとなく砂をちょっと手で盛る。

手に押された砂つぶの流れのような小さな出来事も、宇宙で起こりまくっている膨大な出来事の一つと捉えて記録していく。惑星の爆発と同列に扱う。複数の素材や、数々の出来事を合わせて彫刻を作ります。

近年の活動に、個展「リンクスケーター」(WALLA、2023年)、「もてぎ里山アートフェスタ」(城山公園、2022年)、CSLAB×MELLOW ゼミ「ジェンダーに関する観察と実践」(黄金町エリアアートマネジメントセンター K-Library、2019年)など。令和三年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作展 優秀賞受賞(2022年)、第1回 BUG Art Award グランプリ受賞(2024年)。

<http://mukaihikari.com>

インタビュー
ショート (44 秒)



インタビュー
ロング (19分4秒)



美術手帖
インタビュー



みどころ

・展覧会名に込められた意味

海辺の砂は、鉱物や動物の死骸だったものが、風化や波の力によって細かくなり、流れ着いたものです。小さな砂粒にも、昔は一つ一つに名前がついていました。向井は、日常で名もない砂粒を見つけるようにささやかな出来事をすくいあげ、それらを並べて繋ぎ合わせ、新たに名前をつけなおします。例えば、展示作品の一つである《クリームロウソク》は、向井が幼少期に見た映画のワンシーンや、予備校生の時に読んだ彫刻家による対談集の内容、そして大学生の時に見た鉄材といった、複数の記憶が元になっています。このように、向井の中で蓄積された日常生活のたわいもない出来事を、制作の段階で繋ぎ合わせることで作品を生み出します。

・第1回BUG Art Award グランプリ受賞者としての挑戦

本展では、全17点を展示し、うち16点が新作です。これまで向井の作品は自身の手で作ることができるサイズが主でしたが、今回は、展覧会の施工・設営のスペシャリストであるインストーラーと協働することで、向井にとって最大規模となる新作に挑戦しています。

また、審査員や向井が関心を持つ芸術学の専門家、平倉圭氏との対談を通して、制作費や空間の使い方、作品の配置についてなど、新たな視点を取り入れ、展示プランをアップデートしてきました。向井は、自身の作品やプランについて人に伝えていくことは、これまで言葉にすることが難しかった自身の活動や制作について言語化する機会になったと言います。BUG Art Awardを通して成長し続ける向井の展示をご覧ください。

・会期中トークイベントを開催

向井ひかり「ザ・ネームズ・オン・ザ・ビーチ」の関連イベントとして、以下のイベントを開催。
※詳細はBUG ウェブサイトをご確認ください。

①ワークショップ：3月2日(日) 14時～16時

ゲスト：アグネス吉井(白井愛咲さん、KEKEさんによるダンスユニット)



②トークイベント：3月3日(月) 19時～20時30分

ゲスト：内海潤也さん(石橋財団アーティゾン美術館学芸員/第1回 BUG Art Award 審査員)

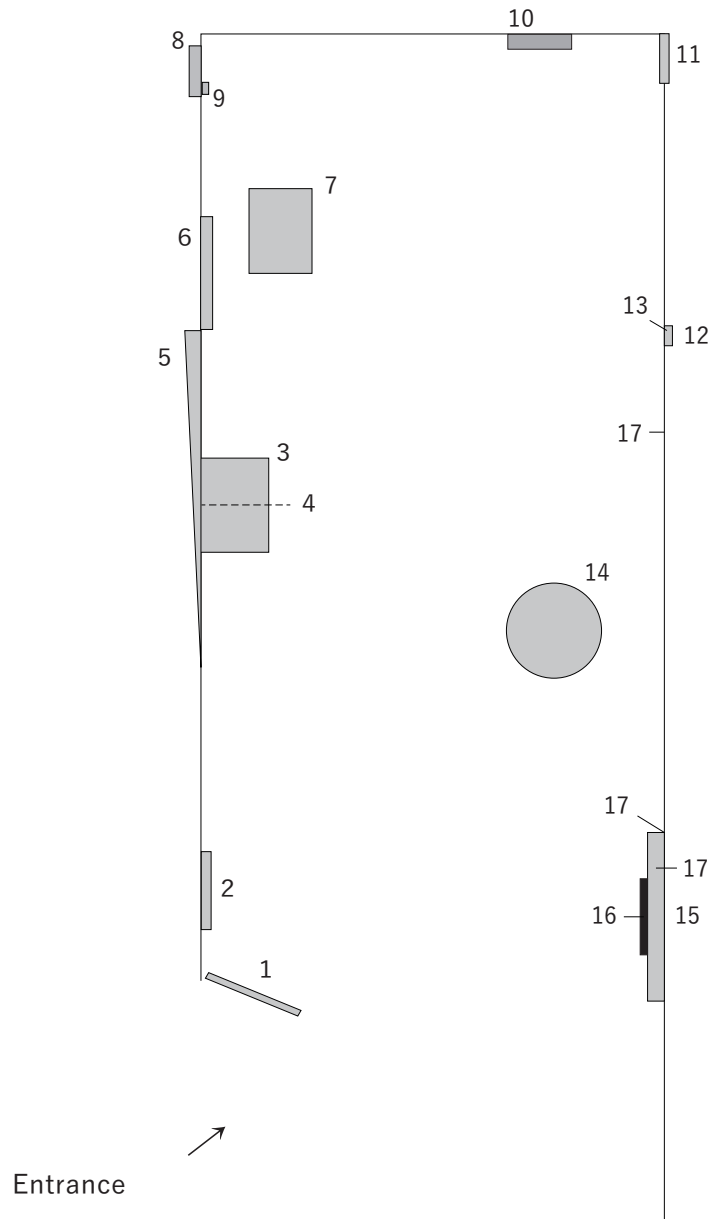


③④ワークショップ：3月9日(日) / 3月15日(土) 15時～16時30分

向井ひかり(本展出品アーティスト)



作品リスト 各展示について、展示タイトル/制作年/素材を記した。全て作家蔵。



1
猫を灯す
2024
ビデオ
1分8秒

制作についてまとめたノートに木漏れ日が差し込み、向井の頭と猫の形をしたヘアクリップの影が映っている。

3
ピングーアース
2024
36×60×25.2 cm
アクリルケース、油粘土、スタイロフォーム、アクリル絵具

何かが住んでいた部屋。窓からは太陽と青い空、雪山が見えている。この部屋にもまた何かがやってきて住み始めるかもしれない。

5
パース
2025
10×540×2.3 cm
スタイロフォーム

よく見ると壁の上部が少し右上がりになっている。会場に馴染んでいるが、パース*としては正しくはないもの。

*「速くのは小さく、近くのは大きく」という原則に従い、遠近感を表す技法。

2
クリームろうそく
2022
ビデオ
11秒

高速道路を走行中、車内から見たビル群を撮影し、上から向井が描き込みを加えた映像。ビルは生クリーム色に塗られ、クリームが流れ落ちている。その上をろうそくがクリームに沿って流れていく。

4
ニョッキ
2025
サイズ可変
豆電球、発泡スチロール、石膏

電気信号でやりとりをしている。

6
ミニカー
2024
ビデオ
2分19秒

バイトの休憩室から見た景色。行き交う車がルールを正確に守ることにより、自ずと動きを制御されていく様子。

7
山間部
2025
29×145×88 cm
ボイド管、アルミホイル、スポンジ

BUGのダクトとほぼ同じサイズの模型。
ダクトを上から眺めることができる。

9
旋盤
2025
0.3×3×3 cm
石膏

蚊取り線香柄のソフトキャンディ。

11
基地
2025
175.6×317×34.2 cm
砂利、木材

BUGのダクトがピカピカとひかり、宇宙
のように見える。月面をイメージした基地
を設置し、展示空間の基点とした。

8
カレンダー玉
2024
8.8×8.8×8.8 cm
和紙、木工ボンド、アクリル絵具、刺繍糸

和紙でできた球体は張子と同じ要領で作
られている。海と砂浜をバックにカレンダー
がひらひらとゆらめいている。

10
たわわ
2025
138.5×160.2 cm
ビデオ

青いバケツでサラシを洗っている様子。
バケツにホースが入ったままになってい
て、水が溢れている。ふわふわと浮くサ
ラシは、風呂でガーゼを膨らました状態
に似ている。

12
チャンピオン
2024
サイズ可変
銅板

縄文時代のチャンピオンベルト。

13
マイクロスコープ
2024
4.1×4.5×4.5 cm
リングケース、とんぼ玉、アルミケース

綺麗だが少しグロテスクなとんぼ玉。蛙
の卵のように見える。直径 3cm ほどの丸
いケースに入れ、リングケースにしまうと、
顕微鏡のレンズをのぞいて観察しているよ
うな気持ちになる。

15
星のウェイ
2025
81.2×260×8 cm
アクリル絵具、木材

BUGの壁に寄生する壁。実は少し反って
いて、天面には天の川をイメージした星
が描かれている。

17
Tips
2025
サイズ可変
トレーシングペーパー

「コツ」や「秘訣」、「裏技」

14
エメラルド
2025
10.4×102.1×102.1 cm
アクリル板、CLIP STUDIO PAINT、
ペニヤ

ゲームの中で目にした台座。台座を飾り
つけるために、側面に鉋物をはめ込んで
いる。

16
zombie
2024
ビデオ
3分1秒

車窓から見える住宅街に、ゾンビに襲わ
れている人が描かれている。日常生活に
ゾンビが現れた時、自分ならどうするだ
ろうか。

第1回 BUG Art Award グランプリ受賞者個展

向井ひかり 「ザ・ネイズ・オン・ザ・ビーチ」

会期：2025年2月19日（水）－3月23日（日）

主催：BUG

運営：小林祐希、片野可那恵（BUG）

制作：飯野優美、堀田ゆうか（BUG）

広報：野瀬明子（BUG）

告知物デザイン：牧寿次郎

翻訳：鈴木梨穂

会場・インタビュー撮影：西野正将

設営：square4